

ただ、現実には、建設業もたくさんの方が、賃金も高いですし、ただ大変な仕事ですけども、介護だってその風評に言われるほど安くて大変でなんていう仕事じゃないんですよ。福利厚生はしっかりしていますし、子供さんを産んでもまた育児休業で復職が当たり前できると。こういった職場環境もある。こういったことがなかなか伝わらないから、さっき市長がおっしゃったように、高校生は普通のほうがいいんだ、実業高校だめだなんていうことで学科が削られる。こういった背景もあるわけですよ。

ですから、市長だけでなく、幹部の方はそういうことも頭に入れて、やはり市役所にいるんじゃないくて企業訪問をして、そういった感性を磨いていただきたいと、私は今回訴えたんです。

今後もこのような政治活動を続けてまいりますので、よろしくお願いします。質問を終わります。

○**渋谷佐輔議長** ここで昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午前11時52分 休憩

午後1時00分 再開

○**渋谷佐輔議長** 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

金子豊美議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 順位8番、議席番号3番、金子豊美議員。

(3番金子豊美議員登壇)

○**3番 金子豊美議員** 初めに、4月の選挙により初当選し、きょう初めて壇上より一般質問をさせていただきます。言葉の間違いや質問の重複が多々あるかと思いますが、ご了承いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

それでは最初に、長井市北部地域の戦略について質問をさせていただきます。

まず、選挙期間中も多くの市民の方々から言われたことの一つですが、市南部に対して北部は東西の道路、通学路も含めて生活基盤の整備がおこなわれていると言われていたが、北部に対する今後の戦略を市としてどのように考えているのかお聞きしたいと思います。

市内南部のほうは、大手スーパーの進出を初め、市民文化会館、つつじ公園、生涯学習プラザ運動場、長井ダム、道照寺平スキー場などがあり、にぎやかな地域となっております。対して、北部については、あかしあ産業団地、下水処理場、レインボープランコンポストセンター、葉山及び葉山森林公園、古代の丘縄文村などがあるのに対しまして静かでおこなわれていると感じている人が多いです。

なぜ南部がにぎやかで北部が静かに見えるのか。あかしあ産業団地については、ケミコンや東芝ライテックを初め、撤退や閉鎖をした企業もあり、その跡地利用や企業誘致についても市民の方々は期待と不安を抱きながら関心を持っております。市北部の戦略についてお聞きするのが第1点であります。

次に、2つ目は、あやめ公園についての質問です。

あやめ公園に対する市民の思いは強い。観光客を呼ぶことも大切だが、市民が常に公園に行ける環境整備が必要ではないかというふうなことであります。

先日、私の亡くなった父親の同級生で、現在横浜に住んでいる関東致芳会相談役の方からお

手紙をいただきました。その中に、「あやめ公園の復活」と書いたところがありますので、一部、抜粋ですが、読ませていただきます。

当公園は、東北有数のアヤマであり、100余年の歴史を持ち、私たちの子供のころは開園を一日千秋の思いで待っていたものでした。それが時代の変化とともに人気が薄れたため、あやめ公園駅を新設し、入場料化し、出入り口に建物を建てても利用者がふえないと聞いております。最も意外なのは、市民が優待券、無料券のことだと思いますが、手にしてもそれを使おうとする愛着がなくなっていることです。あやめ公園の所有者は長井市ですが、という文面がありまして、中略です。最後に、公的財産が宝の持ち腐れとならないよう、早急な対策が必要ではないのでしょうか。ふるさとを離れた者の表面的な捉えでの外れかもしれませんが、という文面でした。

市民の愛着がなぜなくなっているのか。なぜなくなっているように見えるのか。市民の思いは強いはずなのに、それは市民にとって親しみのある魅力ある公園となっていないからではないのかと、そのように思われます。人が集まり、交流できるまちづくりのためにも、市民が常に公園に行ける環境整備が必要だと思います。

今後の計画等についてご説明をお願いいたします。

次に、地域づくりと社会教育の推進について質問をさせていただきます。

まず、1つ目は、地区公民館のコミュニティーセンター化についてであります。

今年度の市長の施政方針の中で、これも抜粋でありますけども、「自治公民館や地区公民館を拠点とした活発な地域づくりの基本は、地域住民による住民主導型の地域運営であると考えております。そのためには、各地区の特性や地区全体の課題を確認し、その解決のための人材育成や事業の展開方策を地域において共有する

地域づくり計画の策定が望まれます。平成26年度には、平野地区において地域づくり計画が策定されました。地区公民館の新たな指定管理期間の初年度となる平成27年度においても、引き続き公民館を拠点とした地域づくり計画の策定を実践に取り組む地区に対して、主事を増員する人的支援を行ってまいります。将来は、地区公民館を、社会教育の枠を超えて地域課題に自立的に取り組むコミュニティーセンターに発展することに期待します」と述べておられます。

コミセン化の時期については、次期指定管理者が始まる平成30年度ごろから実施したいと、私が主事時代にはお聞きしたところであります。

主事の増員について、3月議会でご承認いただき、4月より採用ということで、現在4地区で1名増員体制になったと。これはすごく感謝しているところであります。市長の方針に沿って、コミセン化に向け、一つ一つではあるが、着々と準備、環境整備が整ってきているということを感じているところであります。

そこで、最初の質問ですが、長井市教育振興計画にもありますように、いのちを育み『長井の心』を未来につなぐまち、その中に、公民館活動の充実、地域づくりと社会教育の推進とあります。コミセン化になった場合、特に地域づくり計画の策定に基づき実践していくことになるわけですので、生涯学習、社会教育とのかかわりをどのようにしていくのかが心配されるところであります。そこで、公民館をコミセン化した場合のメリットとデメリットについて、どのようなことが考えられるのか教えていただきたいと思っております。

また、地域づくり計画を策定後、どのように計画を実践していくのかが大切だと思いますので、実践方法等、どのような方法が考えられるのか、市当局のお考えを教えていただきたいと思っております。

次に、施設の維持管理と今後の整備計画について質問をさせていただきます。市庁舎初め、市民文化会館や図書館、長井病院などの新築や改修など、経費のかかる事業が予定されていますことを先日の一般質問の中でお聞きしたとお承知しております。しかしながら、各地区の公民館も維持管理費がちょうどかかる時期となっております。そのような状況の中、指定管理者制度を導入しながら年次計画を策定し、順々に修理や改修工事を進めていることは承知しております。

しかしながら、施設を利用している市民や地区民が早急に求めているものは何なのか、例えば洋式トイレ、エアコンなどの設置が考えられると思います。集中豪雨などの災害のとき、一時避難所にもなっているとところもあるわけですので、それを加味した計画となっているのか、教えていただきたいと思います。これは市長にお聞きしたいと思います。

次に、自治公民館の活動支援について質問をさせていただきます。

自治公民館は、地域のコミュニケーションを深め、世代を超えてともに集うことのできる一番身近な施設です。また、最近では自主防災組織の核として利用されております。世帯数の多いところ、少ないところ、さまざまな自治公民館があります。長井市では、長井市自治公民館の施設及び設備事業補助金が長井市自治公民館活性化事業補助金として自治公民館にこれまで支援を行ってきておりますが、各自治公民館の経費や活動状況については教育委員会でも把握されていないと思います。

市長の施政方針にもあったように、「自治公民館や地区公民館を拠点とした活発な地域づくりの基本は」というふうな文面がありました。なぜ今、自治公民館の活動が大切なのか、活動したくてもどうすればいいのかわからない、予算的にも苦しいなど、いろいろ悩んでる公民館

に対して今後支援をしていく上で、教育委員会だけでなく、自主防災担当課、総務課だったと思いますが、そことも相談をしながら自治公民館の活動状況について把握しておくべきではないかと思います。どうでしょうか、これは教育長にお聞きしたいと思います。

最後であります、市指定文化財の現状と今後の取り組みについて、2つほど質問をさせていただきます。

1つ目は、無形文化財の現状と支援についてお聞きします。

現在、工芸技術の部が1つ、芸能の部6つが無形文化財として指定されております。特に芸能の部の現在の活動状況はどうなっているのか、また、無形文化財に対してどのような支援を行っているのかお聞きします。

2つ目は、芸能の部に登録されている6つのほかに、指定はされていない伝承文化が市内には多くあります。例えば各神社の獅子舞、笛や太鼓などはやし、各種の祭、語り部等々があります。

獅子舞は、それぞれの神社によりおのおのの特色があります。黒獅子まつりとは違って、その神社本来での祭で舞う獅子舞はさらに勇壮であり、趣のある獅子舞と感じております。しかしながら、各獅子舞とも後継者の育成については共通の課題となっております。獅子舞、笛や太鼓、獅子踊り、各種の祭、語り部など、多くの伝承文化については一度空白が起きてしまえば再開するにはとても困難が待ち受けているのが現状です。関係者の研修や情報交換、交流の場を設けて伝承文化が途切れないよう、遅くならないうちに支援することが必要ではないかと思われま。す。どうお考えか、教育長にお伺いしたいと思います。

なお、先ほど自治公民館の質問の中で、教育長と申し上げましたが、市長のほうからご答弁いただければありがたいと思います。

以上で壇上からの一般質問を終わらせていただきます。ご清聴、どうもありがとうございます。（拍手）

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 金子豊美議員のご質問にお答えいたします。

金子議員からは大きく2点、合計で6点ほどのご質問をいただいたと思います。地域の代表として、熱いご質問でございますので、精いっぱい答弁させていただきたいというふうに思います。なお、答弁漏れ等ございましたら、後ほどご指摘いただければというふうに思います。

まず最初に、長井市北部地域の今後の戦略についてというご質問でございます。

この件につきましては、金曜日の平進介議員のほうからも、若干おっしゃっていることは違いますが、同じような視点からのご質問をいただきましたので、答弁が重複するかもしれませんが、ご容赦いただきたいと思います。

市南部に対して北部は、東西の道路、通学路も含めて生活基盤の整備がおくれていると言われていたが、どのように考えているのかと、道路の整備の面からまず最初、お話ししたいと思います。実は、道路の整備については一番、そうですね、非常に具体的な数字とか整備率とかで申し上げてるのではないんですけども、概しておくれているのは豊田地区と伊佐沢地区だと思っております。あと、西根地区も結構、集落内の道路の整備がおくれていると、比較的、致芳地区と平野は整備がされているというふうに思っております。

致芳地区については、ここ三、四年、どんどん進めさせていただいています。南部の国道287号南バイパスにつきましては、27年度中に供用開始するというところで工事中でございますが、北部の森バイパスについては既に昨年度に供用開始をしてございます。

あわせて私ども市といたしましては、森地区

と東五十川地区のアクセス、市道の整備をできるだけ進めるべきだということから、東五十川は残念ながら大きな工事、改良はできなかったんですが、森については市道森線について昨年度に工事を完了いたしまして、延長で900メートルの工事を完了して、約1億7,000万円近く、これは単独の事業でございますけれども、行いました。

また、成田地域の主要地方道長井大江線については、県施行の道路保全事業、側溝整備工事が今年度で完了という予定でございます。

市道については、平成25年度に道路災害の認定を受けまして、これは凍上災というので白兔線の道路災害復旧工事、平成26年度には南部西横線の歩道整備工事が完了しております。

また、西根地区になりますけれども、寺泉地区の大沢線と草岡地内の長者屋敷2号線、成田地内の川原屋敷若宮線、白兔地内の唐梅白兔線、白兔南線において道路改良事業が進行しております。これは南部をほとんどしてませんので、ほとんど北部に集中しているというのが現在の状況でございます。

なお、今後とも地元の要望等をお伺いしながら計画的な道路整備を進めてまいりたいと思います。

加えて、都市再生整備事業でことしからの工事になる予定をしておりますが、成田の消雪道路のほうも施行する予定でございます。

戦略はどうかということでございますけれども、非常に長井市として、例えば北部についてこうこうこういうふうにして活性化しようとか、南部についてはこういうふうにして活性化成功したとか、そういう考え方は全くありません。私はですね。ただ今までの長井市の60年の市政運営などを見せていただきますと、特に成田のほうに工業団地、正式には農工団地って言いますけれども、工業団地ではありません。農地の指定をして、そこに立地する企業があった場合

に、さまざまな法手続を支援しながら企業の立地を促進してきたと、そして農業から製造業に雇用を転換していただくということで、もう今から40年、50年ぐらい前にそういったものを進めてきたところですけども、現在、特に旧山形マルコンの跡地、現在は日本ケミコンの所有地になってますけども、そういったところが工場を閉鎖してそのままですので、非常に寂しい状況を感じている地元の方もいらっしゃると思いますが、ここ7年ほどの間に実は大きい立地の話が2回ほどございました。

1つは、自動車関連の大手企業、あともう一つは現在も進めておりますが、食品加工の大手のメーカーさんだということでございますが、これは常に他県と、あるいは山形県内との争いになってまして、残念ながらなかなか立地に至ってない。それは、企業側の輸送コストですね。ここで製品をつくって、その供給地に運ぶ、需要地に運ぶ、そのときにまでかかる輸送コストが残念ながら長井市の場合は極めて不利な条件にありまして、そういったところが少し弱いというふうに思ってますが、逆に北部のほうは水資源が豊富ですので、そういったことを生かして、現在、ちょっとなかなか去年から進捗してないんですが、そういった食品加工等々の製造業等に立地できるように努力しているところでございます。

長井全体としては、午前中の質問でもお答えしたんですが、中央地区のコンパクトシティー化ということで都市機能を中央地区に充実させようと、そして周りの5つの地区については小学校、地区公民館と児童センター、それにちょっと足りない機能の部分新たに新しく、小さい拠点として整備したいと、それは5地区全です。そして、中央地区とその5つの地区を交通ネットワークでしっかりと充実した体制をとっていくと、それが少なくとも50年間は人口が減少し続けるということは、これは残念ながら

ら事実でございますので、緩やかに少しでも減るように、そして、なおかつ長井の市内だったらどこに住んでいても不便でないようにということで、その辺の充実を図りたいと。

ただし北部については、平進介議員のご質問にもお答えしましたけれども、かつては長井は製造業として多くの雇用がありました。残念ながら、10年、15年前ぐらいから大分減ってしまいました。もう平成10年から平成15年で大体2,000人の雇用がなくなってますので、その2,000人の雇用っていうのが、市民はもちろんですが、特に白鷹から多くいらしてました。その方たちが長井に働きに来られるんじゃないんで、今は山形西工業団地ほか、山形市内に数多く行っておられると、これは白鷹町長がそういうふうにおっしゃってます。ですから長井に北のほうから余りいらっしゃらなくなったと、同時にまちなかの商店街の機能も含めて西置賜の中心としての長井の存在価値がどんどん薄れてしまっていて、そして北のほうがちよっと寂しく感じるんじゃないかというふうに思います。

しかし、長井の立地上、地形的なものを見ますと、何というか、まちの中央を最上川が流れてますよね。ですから伊佐沢については、実は市の施設っていうのは斎場ぐらいしかないんですね。最上川の西のほうについては、野川と白川で分かれています。野川から北のほうっていうのは致芳と西根ですけども、工業団地ぐらいしかないですね。あと、南のほうも白川から向こうっていうのは、市の施設っていうのは産業団地ってありますよね、流通団地と言われたそれしかないです。あとは最上川と白川と野川の西のほうにまちが、市街地が広がっているということです。

ただ、成田地区は長井と隣接してますし、もともと成田はいろんな関係から人口が多いところで、そんなことでの市街地は広がっておりますけども、ですから、西に伸びるのが長井の実

は自然な形なんだろうと思います。ですから野川と白川と最上川の間がどうしても中心になるという地形なんではないかなと。

ですから私ども、例えば私、今泉ですけど、今泉ももうずっと言われてるのは、長井の表玄関だと言われてて、交通の便が非常によかったんです。しかし、何にもないということで、みんなやっぱり不満を持っています。北部を含めて不満を持ってるわけですね。

あと、伊佐沢の方も伊佐沢で持っています。しかし、長井市内はどこのところからでも、大石除いて15分で市役所まで来れるんです、普通は。こんなまちは山形県35市町村の中でそんなにないです、2つ、3つぐらいだと思いますね。山形周辺の小さいまちとか、そういうところだけで、置賜では長井だけです。

例えば米沢、人口9万人近くいますけども、遠いところからだったら50分ぐらいかかりますよ、市役所まで。ところが私どもは15分。それぐらいコンパクトでいいまちですので、これは北部、南部、中央ということではなくて、市全体をどういうふうにして活性化させていくかと、魅力アップを図るかという戦略をぜひ金子議員からもご提言いただきながらつくっていくと、それがすなわち、均衡のある北部も南部も中央もみんな住みよい地域をつくっていくということにつながるといえますので、ぜひご理解いただきたいと思います。

あと、2点目のあやめ公園に対する市民の思いは強いということで、これはおっしゃるとおり、観光客のためのあやめ公園ではなくて、私たち市民が楽しむ憩いの場だったわけですけども、市民が常に公園に行ける環境整備が必要でないかということでご提言でございます。

1つ、あやめまつり、今開催中ですけども、今から十七、八年前にあやめ公園改造しました。平成8年か9年ごろだと思いますが、その際に今のような形になったんですが、そのときに高

台、今遊園地、子供の遊び場にしていますけども、あそこに大体いろんな露天商が並んで、あとはサーカスなども場所をかえたりしてきてました。そのときは、非常ににぎわってたんですが、その18年ほど前に整備したときに、いわゆる露天商同士でのいろんないざこざがあって、そして、露天商はこれ以上あんまりよくないということでもなくしたっていうふうになっています。

したがって、あそこの高台を公園化することによって露天商を逆に締め出したと。一方で、今の北側の駐車場、入り口ありますけども、あの周りに地元の玩具店中心に露天の方を協力いただいたというのが今の形のようにです。したがって、サーカスなどの場所もございませんし、また時代も少し流れが変わってきて、今のようなあやめまつりになったというふうに思っています。

ただ、あやめまつりについては、今のままでいいっていうふうには思っておりませんが、なかなかイベントを行ってお客様というよりも、今市民の皆さんが観光協会の人や、あるいはさまざまな団体、NPOの皆さんが自主的にいろんな活動をなさってまして、これは本当の市民の楽しみ場としてにぎわってるんじゃないかなと思っています。

あともう一つは、公園そのものの改造ですが、平成24年に、あそこは都市公園ですので長寿命化の計画をつくって、まずは、ちょっとすぐ工事できなかったんですけども、野球場とか、幸町のグラウンドのほうがやっぱりあやめ公園の都市公園の一環なんですね、そちらのスポーツ施設のリニューアルを早急にさせていただいて、それが終わってからあやめ公園の改造をしたいと。5年以内ぐらいには着工したいと思っています。その間にどういうふうに改造したらいいか、市民の皆様の意見を聞いたり、あるいは観光協会の皆さんとさまざまな委員会をつくって、ことしあたりから検討に入りたいと思っています。

施設、あやめ会館も含めて非常に老朽化してるといふことと、あと金子議員も感じておられると思うんですが、あやめ公園というよりも、私どもは500種、100万本の日本一のあやめ公園のいわゆる数を、量で勝負してるもんですから、あやめ畑になってしまったんですね。これは、私どもが小さいときはそうじゃなくて、もうちょっと風情があったような気がするんです。それが、最近あやめ畑みたいになって、稲と同じように苗植えていいですか、ああいう形じゃなかったですね、昔。色彩とか、あと、高さも調整してましたし、そういったところに今度は改造するときじゃないかと思えます。

なお、今市民の皆さんの、特に30代、40代の子育て世代、20代もそうですが、一番強い要望っていうのは子供の遊び場で、あやめ公園のような、いわゆるつつじ公園はある。本当に市民の皆さんが日ごろ行って遊べる公園なんですね。ただ、あやめ公園は、あのように畑になってますので、市民がちょくちょく行ってというより散歩コースぐらいでしか、閉園してるときはないということで、むしろ子供の遊び場、子供からお年寄りまで、屋内で雨でも冬でも軽運動とかスポーツ、遊ぶことができる、そういう施設を求める声が大きいです、そういったものを整備する時期に来てるんじゃないかと、そのように考えておりますので、ご理解いただきたいと思えます。

2点目の地域づくりと社会教育の推進についてお答えしたいと思えます。

まず最初に、地区公民館のコミュニティーセンター化についてですが、議員のほうからはいろいろ、もともと致芳地区の公民館の主事をずっと続けて、担っていただいていたわけですから、まさに社会教育、地域づくりのプロといえますか、一番の実践者だったわけですが、簡単に考え方を申し上げますと、現在もそうですが、地区公民館というのは、やっぱり地方だ

ったら地方のいろんな地域づくりとか文化とか青少年育成、社会教育、生涯学習の拠点なんですね。同時に、地域の例えば地区の役員、地区長会からさまざまな事務局を担っていただいている公民館もございます。これは地区によって違うんですけども、名実ともに社会教育を中心とした地域づくりの拠点なんですね。

しかし、今の指定管理者の契約っていうのは、社会教育の契約しかしてないわけです。したがって人も少ないし、夜とか日曜日が出なきゃいけない主事の皆さん多いと思うんですが、そうすると時間外でさえ出せる予算がないと、それは社会教育の部分もあるんでしょうけども、地域づくりの部分が多いだろうというふうに私は思っておりましたので、その辺を以前からずっと教育委員会と、あるいは地区公民館の館長さん方といろいろ意見交換しながら、ぜひ形をそろそろ変えていかなきゃいけないんじゃないかと、同時に今、市内大体9,700戸ぐらいが世帯数なんですが、実際の世帯数、特老とかそういったところなんかはまず別としますと、大体9,300世帯ぐらい。そのうち2,000世帯近くがひとり暮らしのお年寄りとか、お年寄りだけの世帯、65歳以上の世帯の方が多いと、65歳じゃお年寄りとは言わないんでしょうけども、そうしますと、将来ともどンドンどンドンひとり暮らしの方がふえてくるだろうと、そうしますと地域福祉という視点で考えていかないと、私ども行政だけでは到底できません。

また、いろんな社会福祉法人とか社会福祉協議会の協力だけでもだめだと、やっぱり地域の皆さんの協力が必要だと。あとは東日本大震災以降、防災っていうことが去年、おとしも続けて集中豪雨ございましたし、これらも私ども行政だけでは、あるいは消防、消防団は地元ですけども、消防署、警察署では到底できないと、やはり地域での防災が必要だろうと、自主防災組織も含めて、そういったところを担うところ

ほどこだわらたらといったら、それぞれの地区公民館をもう少し機能を充実させて、その地域づくりと同時に私ども市役所の、語弊あるかもしれませんが、分署的な機能も担っていただくべきじゃないかということで、まずそのきっかけとして、我々行政からの押しつけではなくて、それぞれの地区で将来自分たちの地域をどうされたいかと、どういうふうなまちにすれば自分たちが住みやすいかということを考えていただいて、あわせて行政も必要なところはやりませんが、一緒になっていわゆる協働のまちづくりをすべきだと。

長井市も協働のまちづくりってというのは15年ぐらい前からやってきて、今第5次総合計画って去年から始めましたけども、その前の第4次総合計画の一番のテーマってというのは協働のまちづくりだった。これはこれで進みましたけれども、でも、どちらかというとなPOなどが中心としたテーマ型の協働のまちづくりは進みました、しかし、地域の協働のまちづくりは残念ながら全くと言っていいほど進まなかったんじゃないかと。ですからそれを、地区公民館を地域づくりの拠点としたコミュニティーセンターという位置づけをして、そのために主事をふやして、あと将来的には市の職員で担当制というのを、これは本人の意向などもお聞きしまして、職員を派遣するんじゃないんですけども、職員がいろんな形でお手伝いをさせてもらうと、できればその地域出身の職員が一番いいのかもしれないんですけども、そういう職員の地域担当制なども一緒に導入しながら、どういうふうにしてこれから地域の協働のまちづくりを進めていったらいいか、それを模索しなきゃいけないんじゃないかなと思います。

したがって、ことしから約3年ぐらいかけて、まずは第1段として、将来地域のあり方とか、あるいはどういうふうにしてみんなで支え合う、助け合う地域づくりをしていくかということに

ついてみんなで意見交換したいと思います。済みません、長くなりまして。

私のほうの最後のほうなんですけど、施設の維持管理と今後の整備計画ということでございますけれども、まずは小・中学校と幼稚園、児童センターですね、そちらのほうの全部のトイレの洋式化とウォシュレットなどをつけて清潔なものにしようということと、エアコンは全部つけたいと。

残念ながらことしじゅうに全部終わらせる予定だったんですが、国の補助事業の採択を受けることができなくて、小学校のほうもちょっと足踏みしておりますが、来年は補助事業ができなくてもしょうがないので単独でもしなきゃいけないんじゃないかなと。それを終わった後、地区公民館の館長さんとか主事の皆さんとも協議しながら、何をしていたらいいか、必要なものは予算化して整備してまいりたいと。あわせて、さまざまな自分たちの自主的な取り組み、住民の皆さんのいろんな目標、思いを予算化することなども含めて充実を図ってまいりたいと思っております。

ちょっと抜けてるかもしれませんが、後ほど再質問いただければというふうに思います。じゃあ、私のほうからは以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 加藤芳秀教育長。

○**加藤芳秀教育長** 金子豊美議員の質問にお答えいたします。

私のほうからは、地域づくりと社会教育の推進についての(3)の自治公民館の支援活動についてお答えしたいと思います。

自治公民館は、本当に住民に最も身近な施設でありまして、コミュニティーの維持にとって最も基礎となるものだというふうに受けとめております。自治館に対する支援が必要であるのご意見は、さきの3月の議会でも指摘されておりまして、昨年度機会を捉えて聞き取りなどを行ってきた経緯がございます。

そうした中で、地域の人口が少なくなっているというようなこともあり、参加者が少なくなってきた、あるいは魅力的な事業の組み立てに苦労しているなどの状況を伺っているところでございます。教育委員会としても、地区行事を頑張っただけで継続し、実施していることに対して何かの支援が必要でないかというふうに受けとめております。

例えば、地区の花見であるとか、芋煮会など、地域の触れ合いを深める事業を行う地区に対しても支援ができるように、現在の活性化事業補助金のメニューの拡充という形で考えていきたいというふうに思っておりますので、議員ご指摘の自治公民館の活動の把握ということについても、このようなメニューを拡充することで可能になるのかなというふうに思って、今後検討していきたいと考えております。

次に、市指定文化財の現状と今後の取り組みについてということで、2点ご質問いただきました。

無形文化財の現状と支援についてということでも少し質問にお答えしたいと思います。

市指定の芸能関係の無形文化財は、現在6つございます。その中で、總宮神社と小出の獅子舞については、現在も活発に活動していただいているというふうに考えております。そのほか、獅子踊りについては、平山獅子踊り、五十川獅子踊り、勸進代獅子踊り、河井獅子踊りの4つが指定されております。それぞれ保存会が結成されておりますが、高齢化とか後継者不足などの課題を抱えており、活動も難しい状況にあると認識しております。その中で、平山、五十川、河井の獅子踊りについては、それぞれ小学校で長井の心推進事業として保存会の皆さんから小学生が指導を受けながら獅子踊りの伝承活動に取り組んでおります。

獅子踊りに対する支援としては、議員ご案内のこととは思いますが、平成18年に文化庁のふ

るさと文化再興事業により、衣装等の更新や記録映像の制作などを行い、その後は個別団体の要望によって各種助成金が活用されてございます。最近では、平山獅子踊りの皆さんが平成25年度に心のまちづくり基金の採択を受けております。なお、教育委員会からは県の伝統芸能伝承活動補助金を地区公民館に対して補助しておりますが、その補助が直接獅子踊り保存会に対するものとしては利用されていない状況であるというふうに認識しております。

伝承事業は非常に大事なものであるということと、遅くならないうちに取り組みをというご指摘、ご提言をいただいたわけですが、そのとおりだと思っております。ただ、伝承に当たっては金銭的な問題よりも、むしろ担い手の問題のほうが課題かなというふうに捉えております。引き続き各小学校での長井の心推進事業による取り組みを支援してまいりたいというふうに考えております。

また、現在、東北文教大の菊地和博教授が中心となって、獅子踊りなどの伝統芸能の調査、啓蒙活動などが進められておりますので、そちらのほうに情報提供に努めていきたいというふうに考えております。

なお、今後の地区計画づくりを取り組むわけではありますが、その検討の中において地区の誇りでもある地域づくりの素材の一つとして、その重要性を地区民の皆さんご自身が自分たちの財産というんですか、宝物としてあるのだということを確認いただいて、伝承の方策を検討していただくということも大事なことだと思っておりますので、その必要な、そこに向けた支援についても考えていきたいというふうに考えております。

○**渋谷佐輔議長** 3番、金子豊美議員。

○**3番 金子豊美議員** 大変細かいところのご説明、どうもありがとうございます。

平議員の質問のときにもお聞きした点と一緒に

なところもありますけども、やはり今回の選挙期間中もいろんな方々に言われたことは、市民としては、何となく北部のほうがおくれてるんじゃないかという、そういう感覚を持った方が多くいるというふうなことです。

ただし、市長も言っておられますように、考えてみれば、今泉のあの旧道のほうも道路事情はよくありませんし、お互いさまだなというふうに、改めて考えてみればそのように思うところではありますけども、やはり致芳地区の場合ですと、成田以外の通学路、例えば八反田の通学路、消雪道路の要望とかいろいろあると思いますので、その辺も都市計画道路には入っていないんですが、いろんなメニューを今後提出していただきながら、一遍にやるということはなかなか大変だと思いますので、ぜひいろいろ致芳だけでなく、西根、伊佐沢も含めて、周りの部分についてもご検討いただきたいということをひとつお願いしたいと思います。

それから、あやめ公園の件ですが、やはりいろんな意見があると思います。1回改築というか、整備したんですが、それでも昔のほうがいいとか、いろんな意見を聞くのは、これは当然のことです。

先ほど、市長が5年以内でというふうな年数をおっしゃったわけですので、その間、いろんな方の意見を聞きながら、やはりにぎやかな雰囲気、あと静かな雰囲気、どっちへいろいろすることも出てくるかと思うんです。例えばあやめまつりはにぎやかなほうがええ、だけどふだんは静かな、読書したりされるとか、例えばそういったいろんなものを含めて、幅広い方々から意見を聞きながら今後の計画を立てていただければな。当然、市民の方々とありますけども、市民だけでなく、地方出身の方々とか、ほかの地区の方々からも意見を入れながら進めていくことになるかと思っておりますけども、ぜひいい公園になるように、今後ご検討をお願いしたいと

いうふうに思ったところでした。

あと、先ほどケミコンの跡地のお話、ちょっと戻りますけども、ライテックとか、そういう部分についても、今現在コンクリートが剥き出しになってる、ぶらっとしたような状況なものですから、いろんな人が通るものですから、できるだけ早くあそこを対策していただければなというふうに思うんですが、なかなか交通の便などを考えると、コストもかかりますし、長井市の重要事業要望にございました西回りの幹線道路、そういったものも早く整備していただきながら進めていただければなと思っておりますので、その辺も一応、市長の考え、お聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。

先ほど言いました、繰り返しになりますが、まず白鷹のほうは348号線通って、随分、私たち長井も便利にはなったんですね。ですから、むしろ致芳なんかは白兔とか東五十川って本当に近いですよ。ですから、そういった意味で、道路っていうのはそのときそのときで大きく環境が変わりますので、非常に重要な、戦略的にどうするかっていうことを考えて道路も要望したり、あるいはみずからつくったりすることが必要だと思います。

西回り幹線道路ですが、287号線という形で西回り幹線道路を通そうというふうに思ってます。それは、287号線っていうのは国道なんです。県の管理の国道なんですね。本来であれば、長井市の中で唯一、国直轄の国道っていうのは113号線、ちょっとかすってる程度ですけど、今泉ね。国直轄ですと、かなり我々の要望によっていろんな動きができるんです。ところが、県管理の国道は、やっぱり県の予算の中でやる国道整備なものですから、地域割があるんですよ。今まで長井南バイパスと森バイパス、同じ国道287号線で約20年にわたって整備して

きたもんですから、これからの置賜の中での国道287号線の重点なところは川西バイパスと米沢北バイパスで、長井から東北中央自動車道路の2年後に開通します米沢北インターチェンジまでいかに短時間で結ぶかというのが、私ども長井も含めて置賜の県事業の一番のテーマなんです。

それが終わってから、ある程度けりついてから西回りじゃないと、西回り幹線道路着手するっていうことにならざるを得ないのかなというふうに思ってます、ここは平 弘造県議ともいろいろ議論をし合って、平県議は平県議の立場から進めていこうと、内谷は内谷で、市長の立場で進めろというふうに言ってるんですが、白鷹町とは早く期成同盟会結びましようと言われてるんですね。

しかし、ことしの27年度に南バイパス、泉のところで現道とつながります。そこから今度、西回りになるわけですね。鮎貝のところの荒砥橋まで結ぶっていうと20キロあるんですよ。20キロ以上あるかもしれません。そうすると、今の長井南バイパスっていうのは、採択が決まって、予定線が決まって、着工して20年かかっているわけですよ。そういうことから考えると、その戦略はどうだろうっていうふうに実は思っています。ですから、ここではあんまり詳しいことは言いませんが、手としては長井西バイパスで通したほうがいいんじゃないかっていう県あたりの考えもあります。

それは何かっていうと、一番287号線の中で混むのが泉から長井橋のところなんです。この距離にして2キロぐらいがめちゃくちゃ混む。特にヤマダ電機のあたり、ヤマザワあたりからもうずっと大変な状況です。ここを渋滞を緩和するっていうのは、経済効果が非常に上がりますから、道路の整備としては優先順位高いですよ。ですから、長井の渋滞を解消する西回りバイパスというふうにすれば、どこで結ぶ

かですけども、これは早いんじゃないかと、距離も多分五、六キロだろうと。

ただし、長井とすれば、西にある学習プラザと消防とを結んで、そしてもう一つ橋をかけて、もう野川は橋だらけになりますけども、もう一つ橋かけて、西根と致芳に入ってからどこに結ぶかということだろうと、そこが私ども第1段で、その次に第2段として、そこから荒砥橋まで結ぶという戦略でいかないと、なかなか難しいんじゃないかと、時間がかかり過ぎて、という考え方もあります。

いずれにしても、これはいろんな考え方がありますし、地元の期成同盟会ね、今は致芳地区が会長で、西根、致芳、平野で頑張っておられますんで、その皆様とも協議しながら、どういう形が一番いいか、道路の状況が変われば、また地域の経済とか人の流れ変わるわけですから、これは道路をもっともっと、私ども長井は交通の便、唯一高速道路の通ってない市ですから、そこを逆手に、どういうふうに生かしていくかということで頑張りたいと思ってます。

長くなりまして、済みません。

○**渋谷佐輔議長** 3番、金子豊美議員。

○**3番 金子豊美議員** どうもありがとうございます。

西回りバイパス関係については、やはり時間がかかることだと思いますので、いろんな下調べ、それからいろんな考えなどを集めながら、うまく進めていただければというふうにお問い合わせたいと思います。

それでは、教育長に1点だけご質問をさせていただきます。

自治公民館の活性化というか、関係につきましては、コミセンになったとしても現在のような地区公民館とのかかわりを持って活動していく、そして現在ですと自治公民館の連絡協議会等の事務局は教育委員会で今やってるわけですが、それがコミセン化になった場合には、例え

ばそちらのまちづくり推進のほうにいくのか、さまざま、いろいろそのときの体制が、これも変わってくると思うんです。そういった中で、やはり地区公民館と自治公民館のつながり、あと教育委員会とのつながりもやっぱり大事にしながら、コミセンに移る場合はやっていただきたいというふうに思うんです。

要は、社会教育の部分、地域づくりも社会教育とみな兼ね合うことが多いわけですが、どうしても地域づくりのほうが主になって、社会教育の部分が弱くなっていくんでねかということをやちょっと心配してるんです。ですから、以前、教育長さんともお話してあったように、いろんな形のコミセンがその市町村によって違う、そういった中で長井独特のコミセンをつくるべきでないかというふうに私は考えてるんです。

ですから、市長がさっき言われたように、もう既にいろんな分野の事務局担当したり、相談に乗ったりしてる、そういうふうな対外的なこととはもうやってるわけですから、だから、それプラス、今度地域づくり計画に沿ったいろんなまだ業務が、仕事がふえてくる中で、その社会教育の部分をやっぱり大事にしていきたいというふうに私は考えてるものですから、その辺、今後の意気込みをお聞きしたいなというふうに思います。よろしくをお願いします。

○**渋谷佐輔議長** 加藤芳秀教育長。

○**加藤芳秀教育長** 質問ありがとうございます。

長井市は、他市町に本当に先駆けて住民主導型の公民館運営というのを、本当に、いつごろでしたかな、昭和の56年あたりからですかね、五十六、七年あたりから多分やってらしたと思うんですね。そういう長い歴史をかけて、本当に住民自身が自分たちの地域の課題であったり、あるいはコミュニケーションを豊かにする取り組みなどを一生懸命やってきたという土壌がありますので、そういう意味では、この指定管理3期目の中で、地区公民館がコミュニティセン

ターという名前に変わったとしても、それまで培ってきた社会教育の手法なり、人づくりの基盤という部分は揺るがないものだろうというふうに認識しております。そして、そういったものをむしろ生かして、長井らしいコミュニティセンターになるべきだろうというふうに私も思っております。

それから、地区公民館と地区のコミュニティセンターと自治公民館、その名前がどうなるかわかりませんが、自治館ですね、そこのかかわりについても、今までも本当に密接なかかわりを持っていますし、その中で人と人とのつながりなどもしっかりあるんだろうと思います。

さらに行政のほうで、今、生涯学習課と地域づくり推進課のほうパイプが両方つながるような形につくっておりますけれども、そういったものも十分に機能するような形にしていきたいと思っておりますし、そんな中で、自治館とのつながりというものもぜひ密接なものができるのいいのかなというふうに思っております。

その手だてとして、先ほど申し上げた支援の具体化なども大事になってくるのかなと思っております。

○**渋谷佐輔議長** 3番、金子豊美議員。

○**3番 金子豊美議員** ぜひ、そのようなことで公民館のほうに指導というか、社会教育の部分を大事にしていていただきたいと思っております。

最後でありますけれども、市長にお願いがありまして、この地域づくり計画を各地区で今つくっているわけですが、伊佐沢と中央地区は来年度あたりから入るか今検討中だというようなお話ですけれども、今職員もいろんなことで考えながら、今までと違った雰囲気の中で一生懸命仕事やってますので、ぜひ公民館主事、地元の主事として長く勤められるように、そういった今後の職員の体制、それから待遇等もこれからいろいろご検討いただきながら、公民館職員を応援していただきたいというふうにお願ひしたい

と思います。よろしくお願いします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 金子議員おっしゃるように、これから、主事の皆さんをさらにコミセンになりますとふやさなきゃいけないと思ってます。その際に、今は地区ごとの運営協議会をつくっていただいて、そこでの雇用みたいにしてるんですね。

これは午前中、五十嵐議員からあった市の職員の臨時職員の部分の、かつては事務管理公社で、そのほうで身分がちゃんとした安定した雇用だったんですね。安定したとは言えないんですが、それが消費税かけられまして、行革で集中改革プランの途中だったもので、その5%が莫大な何千万円になるということで、これを削んなきゃいけないということで、本当に職員の皆さんには申しわけなかったんですけども、そういったことで今になってしまいました。

しかし、これは戻さなきゃいけないと、きちんと法人化したところで雇用して、場合によっては同じ致芳だったら致芳、ずっと固定じゃなくて、市内の地区コミュニティセンターを時々かわって、何というんでしょうかね、いろんな情報を共有したりして、お互いに高め合うような、地域づくりの拠点になるような、そういう体制と、そのときに労働条件などもきちんと整備しなきゃいけないなというふうに思っておりますので、ぜひいろいろ今後ともご指導いただきたいと思います。

ありがとうございました。

○**3番 金子豊美議員** どうもありがとうございました。ぜひ、そういったいろんなことを検討していただきながら……。

議長、済みません。

○**渋谷佐輔議長** 3番、金子豊美議員。

○**3番 金子豊美議員** ぜひ、今市長がおっしゃったような職員の立場も考慮しながら、これからいろいろご検討いただければというふうに思

ったところでした。

なお、きょうは初めての質問でちょっと緊張して、しかも不注意で歯がありませんので、大変聞き取りにくい言葉で申しわけありませんでしたが、以上で私の質問を終わらせていただきます。本当にどうもありがとうございました。

小関秀一議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位9番、議席番号11番、小関秀一議員。

(11番小関秀一議員登壇)

○**11番 小関秀一議員** 6月議会に当たりまして、市民生活の福祉の向上と私自身の政治信条であります無理、無駄のない行政運営を目指しながら、一般質問をさせていただきます。

私は4年前の東日本大震災の年、自然災害やエネルギー対策を含めて暮らしの安全安心を改めて考えさせられたとき、生活に最も密着した自治体行政の議員として活動をさせていただきました。特に近年は、これまで経験しない少子高齢化社会における自治体、行政、国政のあり方が問われ続けております。

経済の流れでは、国際的なグローバル化の流れで、特に地方の中小企業や事業所が経営の悪化に瀕し、雇用の場が年々狭められ、東京一極集中に拍車がかかり、地方の暮らしと環境、基幹産業であった農林業も生産性の面から担い手が育たず、瀕死の産業と化しております。これは一自治体の課題ではないものの、大きな行政課題と言え、対策として地方の活性化と称し、福祉の充実、若者定住などのアイデア競争が始まっております。一方、国は安保法制の議論、労働者派遣、TPPの交渉などなど、国益にかかわる大きな課題が国民にわかりやすい議論が少ないままに進もうとしております。